

高校で地元就職した若者達の離職率は41.9%と平均よりも高い島根県。

離職の原因は、若者だけにあるのでしょうか？

また、最近では、「人手不足倒産」という言葉を耳にする機会が増え、
人手不足の状況は、今後さらに深刻化すると予想されています。

本当に、いまのままでよいのでしょうか？

本気で若者から支持される会社にしませんか？

社員がやりがいをもって働ける、

そんな魅力的な会社を本気で目指しませんか？

ぜひ、一步踏み出しましょう！



社長様、
あなたにとって
大切なものは
何ですか？

会社にとって一番大切なもの何でしょうか？

社員
(含む家族)

お客様

取引先

株主

地域の
住民

人を大切にする経営

ただ聴くだけのセミナーではなく、
確実に会社の状態がよくなっていくようなプログラム。

実践講座
全6回

第2弾のテーマは

「支援型リーダーシップ」と「対話」
です。

※カリキュラムの内容は昨年と異なります。

※初参加の方や従業員の方でも十分にご理解いただける内容です。

■昨年参加された方のご感想■（一部抜粋）

「当社が『人を大切にする経営』をベースに変化していく第一歩を踏み出せた
ことに、大きな喜びを感じております。」

「今回の講座は、益田に居ながらでは中々体験することができない貴重な内容
だったと思います。」

「『満足＝高い給与』は1つの物差しでしかないことに気付いた。当講座を受講
していなかったら気付いていなかったかもしれない。」

「今回の6回の講座で近隣の異業種の方々とも多く接し、その企業の現状や取組みなども聞くことで、とても
刺激的な時間を過ごすことができました。」



※ご感想の詳細は、弊社HPからご覧いただけます。

社員が誇りに思い・若者に支持される、そんな会社を目指しませんか？

「人を大切に する経営」

全6回

実践講座

ベテランが定年で退職し、若手が定着しない・・・人手不足状況は今後さらに深刻化!?

ご承知のとおり、全国的に、人手不足で苦しんでいる中小企業は少なくありません。

昨年のNHKの朝のニュースでは、「**人手不足倒産が急増中である**」と特集で取り上げられていました。

ニュースで紹介されたのは、人手不足の影響で去年8月に破産を申請した運送会社でした。異変が起きたのはおよそ3年前。退職したドライバーを補充しようとしても応募がぱったりなくなったということです。受注は増えていたものの、ピーク時に16人いた社員は破産直前には8人に半減し、トラックを売却するなど身の丈を縮めてしのごうとしましたが、売り上げが減り続ける中で経営が行き詰まり、創業40年を超える長い歴史にピリオドが打たれました。運送会社の元社長は「**人がいないので仕事を受けたくても受けられない**。予定していた仕事をこなすこともできず、売り上げが落ちていった。人がいれば仕事をずっと続けていたし、いろいろと考えることもできたと思う。**本当に悔しいだけです**。」と語っていました。

またNHKは、**15歳から64歳までの生産年齢人口**について、

「1995年をピークに減少が続き、直近の2015年では7700万人余りと、**すでに1000万人ほど減っています**。この動きは今後加速し、**2050年にはさらに、2500万人近く落ち込む**と予想されています」と報じています…

申し遅れました。株式会社ビジネスプランの安野広明（あんのひろあき）と申します。

益田市で、十数名の社員と共に、社歴35年以上の会計事務所並びにコンサル会社を経営しています。

ところで、ここ数年、中小企業における「人の問題」がより一層深刻化していると感じませんか？

具体的には、「求人を出しても応募がない」、「人がすぐに辞める」、「若い人が育たない」、「ベテラン社員が定年退職でいなくなる」など…

上記の運送会社のような「人手不足倒産」は、生産年齢人口が減少していくこれからの時代、**決して他人事ではありません**。現に、「人がいない（育たない）ために、仕事を受けたくても受けられない」という状況は、あちらこちらで耳にします。

もし仮に、貴社において「人の問題」が顕在化しつつある、もしくは将来に不安があるならば、いまのうちから対策を講じるべきではないでしょうか？



離職率が下がり、高収益体質になれるとしたら、その方法を知りたくありませんか？

ここで世の中を見渡すと、**離職率が低く、若手やベテラン社員がやりがいを感じながら働き、結果として高収益体質になっている**・・・そんな中小企業が見受けられます。

例えば、寒天を素材とした商品を生産・販売している長野県のI社は、決してハイテクとか、時代の花形商品といったものを扱っている訳ではありません。しかしながら、同社の社会からの評価は抜群で、その証である業績は、48年連続増収・増益。連続が途絶えた後も、売上高営業利益率は常に10%前後と、驚異的な超優良企業です。「社員を幸せにする」という理念経営を愚直に実践しているため、全社員が居心地がよいのは当然で、転職的離職率も実質ゼロになっています。

ちなみにI社は、大企業でも、成長産業でも、ロケーションに恵まれている訳でもなく、その意味において、石見地方の中小企業と何ら変わりないと言えます。

また、この他にも、

- ▼社風が魅力的で、募集をかければ新卒や中途の応募が殺到する会社
 - ▼自律的・自発的な社員が育つ会社
 - ▼社員のみならず、ご家族からも支持されている会社
 - ▼地域社会から必要とされている会社
 - ▼優秀な社員が付加価値の高いサービスを提供することで、価格競争とは一線を画している会社
- などなど、

「人の問題」による悩みとは無関係に、お取引先からも社員からも地域からも支持され、心地よく経営し、なおかつ業績の良い会社は、世の中にたくさんあるのです。

・・・いかがでしょうか？

貴社も、そのような会社を目指したくはありませんか？



その答えは、「人を大切にする経営」です!



実は、これらの中小企業には、共通点がございます。それは、「人を大切にする経営」に取り組まれていることです。では、「人を大切にする経営」とは、どのようなものか？
ひと言でいえば、社員やそのご家族、お客様、仕入先、外注先、地域住民など、
「関係するすべての人々の幸せの追求を目的とした経営」です。

この考え方の下では、「人」を、いわゆる「ヒト・モノ・カネ」といった経営資源の1つとして位置付けるのではなく、「人」そのものが目的であり、モノもカネもその他の資源も、「人」の幸せのための手段に過ぎないと位置付けられます。

このように書くと、「そんなのは綺麗事だ」とか、「業績を高めなければ幸せにできないのだから、業績こそが目的だ」と感じるかもしれません。しかし、これは**机上の空論ではなく、事実なのです**。そのことに気付き、経営の目的を、「業績」から「人の幸せ」へと方向転換した企業は、着実に成果を上げていっています。

また、この「人を大切にする経営」の考え方は、**平成世代の若者たちとの親和性が高い**という特徴もあります。時代の価値観は、20年近くかけて大きく変化してきたのです。

そういう意味では、平成世代が30歳前後となり、社内の次世代リーダーとして活躍するであろうこれからの時期に、「人を大切にする経営」へと舵を切り、軌道に乗せていくことは、中小企業にとって必要不可欠と言えます。

であるとするならば、われわれは、既に「人を大切にする経営」を実践し、成果を上げている企業から真摯に学び、自社の経営に生かすべきではないでしょうか？

そこで、この度、「人を大切にする経営」実践講座と題し、全6回の講座を開催することにしました。

講師は、「日本でいちばん大切にしたい会社」の著者である法政大学大学院の坂本光司教授に師事され、人を大切にする会社づくりのトータルプロフェッショナルとして講演や研修の実績を多数お持ちの、小林秀司(こばやしひでし)先生と、私、安野が務めさせていただきます。

単なる理論の勉強ではなく、あくまでご参加いただいた企業が、**現場で実践していただくことに重きを置いた講座**となります。カリキュラムについては、以下のとおりです。

◆「人を大切にする経営」実践講座 カリキュラム◆

日程	テーマ	主な内容
第1講 5月13日(月)	人本経営による「いい会社」のつくり方	・いい会社をつくるための人本経営を理解し、自社でどのように展開していくか、その実践法を学びます
第2講 6月17日(月) 6月18日(火)	四国 「いい会社」ベンチマークツアー 人本経営先進地区に学ぶ	・視察先(予定) ファースト・コラボレーション／ウインテック／マルブン ※ <u>全て日本でいちばん大切にしたい会社大賞受賞企業</u>
第3講 7月8日(月)	業績軸から幸せ軸を実現する鍵「支援型リーダーシップ」の実践法	・支援型リーダーに求められる姿勢 ・社員の自発性が発揮される条件 ・社員がのびのびするために必要なこと ・マインドセットの重要性 他
第4講 8月6日(火)	幸福度を高める習慣化の実践	・社員が幸せを感じるための習慣について、実践ワークを交えながら学びます ・経営計画書を用いた習慣化の方法
第5講 9月10日(火) 9月11日(水)	大阪 「いい会社」ベンチマークツアー 人本経営先進地区に学ぶ	・視察先(予定) 天彦産業／ヘッズ／情報工房

第6講

10月8日(火)

最終講義
最終プレゼン

- ・ 人本経営に成功していくための総括講義
- ・ 参加メンバーによる成果発表 他

* 各回、13時30分～17時00分(3時間半)での開催となります。ただし第2講と第5講については、2日ともほぼ終日開催となります(バスでの移動中にも講義があります)。

* 講座の進め方

インプットタイム(レクチャー等)とアウトプットタイム(考える時間・シェアする時間・振り返りの時間等)を設けます。この講座の時間内に、聴くことだけでなく、自社での具体的な応用方法についても思考して方針を立て、明日から実践できるように各テーマを繰り返していきます。また、**他の参加者の考え方も大いに参考になるはずです。**

◆講師プロフィール◆



小林 秀司 (こばやし ひでし) *メイン講師

株式会社シェアードバリューコーポレーション 代表取締役
法政大学大学院中小企業研究所特任研究員。
内閣府委嘱「地域活性化伝道師」。
社風をよくする研修やコンサルティングを行い、
人を大切にする会社を世に増やす活動を実践している。
1960年生まれ。
社会保険労務士歴21年。
著書に『人本経営』、『元気な社員がいる会社のつくり方』他。



安野 広明 (あんの ひろあき) *主催者 兼 講師

株式会社ビジネスプラン 代表取締役、あんの会計所長
公認会計士・税理士、未来会計コンサルタント
島根県益田市出身。
2002年公認会計士2次試験に合格すると同時に、
朝日監査法人(現あずさ監査法人)へ入社。
その後、新日本アーンストアンドヤング税理士法人への転職を経て、
2010年に益田市に戻る。
石見の中小企業を元気にするべく、日々奮闘中。

先延ばしにすれば状況は悪化・・・行動を起こすなら、今しかありません!

私自身、会社を経営していて感じるのは、何かきっかけが無い限り、いつまで経っても一歩を踏み出せないということです。したがって、もしも現在、「人の問題」で悩んでいらっしゃる、例えば、「社内の雰囲気が悪く、人が定着しない → 人が育たない → 人による社内外のトラブルが多い → 社長が本業に集中できない → 業績が悪化する → さらに社内の雰囲気が悪くなる・・・」という負のスパイラルに陥っているとすれば、いつまでもそこから抜け切れず、状況が悪化することはあれど、改善は難しいかもしれません。そんなスパイラルがこれから先、3年、5年、10年と続いたとすれば・・・あまり想像したくありませんね(汗)。

そのように考えると、今回の講座は、貴社が**正しい方向へと舵を切り、一歩踏み出す絶好のチャンス**です。当講座を機に、方向が軌道修正され、社風が改善し、こちらから担う人財が育つようになれば、**将来に渡って大きな価値を生み出す**ことができるでしょう。

参加を悩まれている方は、ぜひ、この機会にお申し込み下さいませ。

会場でお会いできるのを楽しみにしております!

安野 広明 拝



株式会社ビジネスプラン／あんの会計
〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL0856-23-6116・FAX0856-23-6674

この実践講座に参加して、共に、「魅力的な会社」を目指しましょう!

「人を大切にする経営」実践講座が、さらにパワーアップしました！

昨年開催した企画では、7月にベンチマークツアー(＝企業視察ツアー)を行い、1泊2日で出雲地方の企業4社を訪問、参加者の皆さまから大変ご好評いただきました。

これを踏まえて、今回の企画では、全6回の講義の中に、ベンチマークツアーを2回ご用意しております(いずれも1泊2日)。しかも今回は、四国・大阪と、県外まで足を運び、選りすぐりの好事例を視察する予定です。当企画オリジナルのツアーに、乞うご期待下さい！

そこで、そもそもなぜベンチマークツアーの付加価値が高いのか？について、5つの理由を以下に書き記します。

その1. 異業種だからこそ得られる気付きが多い。

「同業種ならまだしも、異業種を視察してもあまり意味が無いのでは？」とお考えの方もいらっしゃるかもしれませんが、決してそんなことはありません。むしろ異業種だからこそ、業界の常識に縛られず、客観的に会社を見つめることができます。「人を大切にする経営」に、業界の垣根はないのです。

そして視察を通じて、自社の属する業界の非常識な習慣に気付かされたり、新たに導入した方がよい制度が見つかったりします。とにかく、数多くの学びや気付きが得られるはずです。

その2. 社内の雰囲気(＝社風)を肌で感じることができる。

「人を大切にする経営」に共通するのが、「社風がよい」ということです。そして、あくまで社風は「感じ取るもの」ですので、いくら知識として理解したところで、実際に現場を目の当たりにしなければ意味がありません。

百聞は一見に如かず。

ぜひ現場に足を運び、「人を大切にする経営」の社風を肌で感じてみて下さい。きっと自社で目指したい社風のイメージが明確になるはずです。

その3. 教えてもらった取組みを、すぐに自社に取り入れることができる。

どの視察先も、かなりオープンに取組みを教えてくださいますので、それをそのまま自社に取り入れることができます。ゼロから自社で考案するのに比べて、大幅な時間短縮になることは間違いありません。

「真似も3年すればオリジナルになる」とか、「真似こそが最高の創造性」と言われるように、まずは好事例を真似ることが、成功への近道だと思います。視察先の取組みやアイデアを、遠慮なく真似させていただきます。

その4. 経営者のみならず、社員さんの本音を聞くことができる。

ベンチマークツアーでは、視察先の社員さんのお話を聞ける場を設けています。

経営者の場合、どうしても視点が経営側に偏ったり、「会社をよく見せたい」という見栄が入ったりして、実態が分からないことがあります。が、「人を大切にする経営」で最も重要なのは、「社員さんがどう感じているか？」であって、社員さんからその辺りの本音を聞き出すことで、自社で取組む上でのヒントが得られるはずです。

その5. 自社とのギャップを認識することで、スイッチが入る。

「人を大切にする経営」を目指すにしても、具体的にそれがどのようなものかを見て、理想と現実とのギャップを認識しない限り、次のステップへと歩を進めることはできません。もしかすると自社の現状と比べ、あまりのギャップに衝撃を受けるかもしれませんが、その衝撃によって感情が動き、具体的な行動へのスイッチが入るはずです。理想の姿から逆算することで、「いま、何をすべきか」が明確になります。

・いかがでしたでしょうか？ 多少なりとも、ベンチマークツアーの価値が伝われば幸いです。
ちなみに以下は、前回参加者のご感想の一部抜粋になります。

「一番印象に残っているのは、第3講の企業視察ツアーです。県内のベンチマーク企業を視察した時は、感動の連続でした。やはり優秀な企業には、人を大切にする経営に熱心に取り組んでいるという共通点を感じます。具体的な事例から、当社に取り込めることがないだろうか、見よう見まねでも始められることはないだろうか、しっかり見学させていただきました。」

上記のご感想をいただいた会社では、ベンチマークツアーで学んだ内容を具体的に社内に取り入れ、着実に「人を大切にする経営」への道を歩んでいらっしゃいます。

先延ばしにしたところで、状況は何も変わりません。先行き不透明な中、「いち早く一歩を踏み出せるかどうか」が将来の明暗を分けると言えましょう。ぜひ、このチラシを読まれている皆様にも、「人を大切にする経営」への一歩を踏み出していただきたいと願っています。

なお、当講座の受講料金には、ベンチマークツアーにおけるバスのチャーター代や視察先への謝礼等が含まれています。とはいえ、当講座に参加することで、1社単独よりも格段に安い金額で視察できますし、かつ、そもそも単独では受け入れていただけない先にも視察することが可能です。

さらに、ベンチマークツアーを除いた4回の講座は、益田市内での開催となりますので、都会地での研修と比べ、移動にかかるお金や時間を省略できるのもメリットだと考えています。

ぜひ、別紙のお申込み用紙にご記入下さい！

< 昨年のベンチマークツアーの様子 >



㈱さんびるの社員さんとディスカッション



島根電工㈱の荒木社長と一緒に、集合写真